

総合教育会議資料

芦川小学校への就学に関わる保護者アンケート集計結果の考察

学校教育課

1. アンケートの実施期間

9月7日(木)～14日(木)

2. アンケートの対象

芦川小を除く市内全小学校の1年生から4年生までの保護者

3. アンケートの集計結果より

あなたは、芦川小学校のことをどのように思いますか？

「非常に関心があり、自分の子どもを通わせたい。」との回答が142名あった。これは、回答した保護者の10.3%を占めている。また、「関心はあるが子どもを通わせたいとは思わない。」との回答は833名あり、全体の60.6%を占めている。このことから、市内の多くの保護者が芦川小に対して高い関心を持っていることがわかる。

ただ、「自分の子どもを通わせたい」と回答した保護者のアンケート中、設問2の自由記述の内容を見ると、通学方法や学童保育などでの課題をあげているものが多かったことから、上記の保護者の多くは様々な制約により転校までは考えていないことが伺える。

通学区域外からの受け入れを可能にする際に課題となる点や要望等

○通学方法に関すること

スクールバス等による児童の送迎は必須である。

既存の路線バス・スクールバスを利用して開設することが現実的である。

○学童保育に関すること

迎への利便性から考えると、芦川小学校に設置することは困難である。

御坂の児童館・学童・図書館などの施設を利用することが現実的である。

○教育内容に関すること

学校独自の思い切ったスクールカラーを出したほうが良いという意見が多数あった。

(例)成績の優秀な生徒を集め、エリート育成

不登校の生徒を受け入れ

親元から離れた全寮制の学校

日常会話はオールイングリッシュにするなど、英語に特化した学校

○定住促進に関すること

「通う」のではなく、「芦川に住みたい」と思わせるような取組

空き家の有効活用(無償提供など)、賃貸住宅の増設

定住者を増やすための補助金等の助成(家賃・給食費等の減免など)

首都圏へのアナウンス

【学校評議員 (芦川支所長)】

- ・今の段階では何とも言えないが、芦川の区長会にも意見を聞いてみる必要があるのではないか。
- ・地域の中でも学校関係者とそうでない者とでは温度差がある。
- ・支所長の立場からは、市教委として芦川支所と意見交換を行う機会を設けることも必要ではないか。

【学校評議員 (元芦川支所長)】

- ・学校を維持していく上である程度の児童数は必要なので、児童数が増えることについてはよい。
- ・これまでの芦川小のよさを活かしながら、そのよさが継続できるぐらいの人数が適当ではないか。

【保護者】

- ・芦川小学校として人数が増えることはありがたいと考えるが、具体的にどのくらいという数については何とも言えない。
- ・他地区から芦川小に通わせているが、児童にとっては本当に恵まれている環境だと思っている。中学校、高校と進学していく上で、多くの人と関わりあうことになるので小学校の人数が増えることは歓迎したい。ただ、芦川小学校の校風が損なわれることがない程度。
- ・今現在、子ども同士の間関係、子どもと教師の信頼関係がとてもよく親として安心している。児童の数が増えることは賛成であるが、こうした人間関係や信頼関係が崩れるような受け入れは避けて頂きたい。
また、受け入れる児童の保護者には、芦川地区の風土や文化、学校風土をうまく理解できる努力をしていただききたい。そうした保護者であってほしい。

【校長】

- ・地域や保護者の意向を尊重した受入が望ましい。保護者を含む地域の方々と懇談会等を開催し、継続した議論をしてほしい。

笛教発第9-18号

平成29年9月6日

市内小学校1～4年生

保護者 各位

笛吹市教育委員会

教育長 坂本誠二郎

(公印省略)

芦川小学校への就学に関わる調査について(お願い)

日頃より各校の教育活動にご理解、ご協力を頂いておりますことに感謝申し上げます。

さて、児童数減少が課題となっております芦川小学校につきまして、市教育委員会では児童数の増加を目指し、現在通学区域外からの受け入れ等について検討しております。

つきましては、今後の検討資料とするため、保護者の皆様には別紙アンケートにご回答いただきたく存じます。

何かとお忙しいことと存じますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

※誠に恐れ入りますが、9月14日(木)までに担任の先生までご提出くださいますようお願いいたします。

笛吹市教育委員会
学校教育課
田草川 淳
TEL055-261-3337
FAX055-261-3343

芦川小学校の特色



1 豊かな自然・歴史・文化・伝統を活かした教育活動

☆子どもの成長の土台となる『本物の価値ある体験活動』を通して学びます。

- ・学校所有の炭焼窯を使った炭焼き体験。窯入れ、窯出し等、芦川の自然・文化を学びます。
- ・学校農園等で野菜栽培を体験。自ら育てたこんにやく芋を刺身こんにやくに調理して、学習発表会「ほかほか祭」で地域の方に食べていただきます。
- ・フィールドワークの充実。地域にある文化財・石垣・山・川・植物等を実際に見たり、地域の方からお話を聞いたりして学習を進めます。さらに、見聞を活かし実際にできることを自らやってみるといった実感を伴う学習をします。

2 少人数を活かし一人ひとりを大切に作る教育活動

☆目をかけ、手間をかけきめ細かな学習指導を通して、『生きてはたらく力』をつけます。

- ・子どもと教師が強い信頼関係で結ばれています。
- ・価値ある体験と学習内容とを結びつける授業づくり（見て、聞いて、考えて、やってみる）に取り組んでいます。
- ・個々の学習状況を適確に見取り、必要な支援を行います。
- ・県学力把握調査では、県平均を大きく上回っています。
- ・少人数であるからこそ、一人ひとりに出番があり、学年の枠を超えてお互いに認め合い、折り合いをつけながら良好な人間関係を築くことができます。

3 地域と密着した教育活動

☆地域の方々に温かく見守られ、『地域の子どもは地域で育つ』ことを実践しています。

- ・総合的な学習の時間、野菜栽培指導等、地域の方々をゲストティーチャーに招き積み重ねた豊かな経験と知恵から多くのことを学びます。
- ・「芦川町民運動会」に参加し、和太鼓や一輪車の演技を披露します。子どもの頑張りを地域が暖かく見守ってくれます。
- ・炭焼きでは、地域のボランティアの方に原木の切り出し、玉切り等、多大な協力をいただきます。できた炭を「ほかほか祭」で地域の方々に販売し、児童会活動費の足しにします。まさに地産地消です。
- ・授業参観や学校行事に保護者の他に学校評議員・保護司・主任児童員に参加していただき、開かれた学校づくりを進めています。
- ・保護者と密接な連携ができ共通理解を図りながら子どもを育てています。
- ・芦川保育所と和太鼓共演、夏祭り参加等、密度の濃い交流を行い、保育所から小学校へ安心して入学することができます。

